

NEPAL

五感を使ってバグマティさんを知ってみよう。
耳を澄ませて、周りを見渡して、匂って、触ってみる…
(環境副読本 Bagmati Ji: We Learn and Act With the Bagmati River より)

「泳げる川」を取り戻したい!

～学校から地域へと、ネパールの人々の取り組みが広がってきています～

分散型排水処理施設を建設しました

■多くの地域で下水施設が整備されていないカトマンズでは、各家庭からの排水が未処理のままバグマティ川へ垂れ流しとなっています。こうした汚染を食い止めるために、川の中上流地域のゴカルナ地区デシェ村にて、分散型排水処設 (DEWATS)

を建設しました。この施設の特徴は、比較的安価で複雑な技術を必要とせず、地域の人々の手で維持・管理が可能なこと。川の浄化はもちろん、住民が生活環境を自分たち自身で改善するために、2014年2月より事業を開始しました。



ほぼすべての行程に村の人が関わりました

■2014年度は、デシェ村全177世帯からバグマティ川に流れ込む排水を浄化できる分散型排水処理施設を建設しました。施設を活用するのはデシェ村の人々です。建設にあたっては、コストを含めた建設の工程表を村の人々と共有し、ほぼすべての行程に村の人々が関わりました。また、川が汚れる原因を知るなど、村の人が自分たちで生活環境を改善するための手助

けとなる研修を実施しました。2015年1月には排水処理施設が完成し、施設を維持・管理するための互助組合が発足しました。2月28日の竣工式に登壇した組合長が「村で定期的に清掃活動をおこなうこと」を宣言しました。村の住環境保全に向けた取り組みが始まるとうとしています。

完成した分散型排水処理施設 ▶



まずは川の健康状態を知ることから

「土が病気になった場合、それを知らせてくれるものがあります。わかりますか？」
「土の臭いとか…」
「皆さんが体調不良になって病院にいった時、何を検査しますか？ 医者にはあなたの血液や尿、つまり体を流れる水の状態をチェックしているんです…」
ムラのミライスタッフとデシェ村の人々の間で、そんなやりとりが続きます。土や水、植物といった、村の人々にとって身近なものを切り口に、川が汚れているとはどういうことなのかを、ひとつひとつ丁寧に村の人たちと一緒に確認していきます。



川の汚染原因について等、参加者と対話しながら研修を進める

日本の地域の取り組みをネパールへ



地域発・環境保全の取り組みを学ぶ7日間

「日本から戻った後、自分の学校の敷地にあるゴミ山に今まで目が向いていなかったことに気がついたんです。」そう語るのは、ムラのミライの訪日プログラム (2014年10月13日～18日) に参加したゴビンダ先生。
訪日プログラムに参加したのはカトマンズから5人の環境教育担当の先生と地方公務員、そしてソムニード・ネパールのスタッフ2人を加えた計7人です。日本の地域での環境保全の取り組み事例を知り、ネパールでできる活動のヒントを得るためでした。愛知、岐阜のNPO、市民グループ、学校、民間企業に受け入れていただき、地域や学校でのゴミの分別・リサイクルの取り組み、川を通じた地域づくりなどを学びました。
訪日最終日には報告会を催し、参加者は「自分の身の回りからゴミの分別に取り組んでいきたい」「ここで見たこと、日本の皆さんの活動を周りの人たちに伝えたい」という決意を語りました。帰国した彼らは、体験したことを、周りの先生や学校の生徒たちと共有し、独自の活動を始めています。

「バグマティ川と学び、行動する」環境副読本が完成!

2014年度は、カトマンズ市内の学校に通う子どもたちが、バグマティ川について楽しく学びながら、自分ができていることを考える副読本づくりに取り組みました。
環境教育専門家のチャタジー・公子さんの協力を得て、先生たちとともに環境副読本「Bagmati Ji: We Learn and Act With the Bagmati River (バグマティさんーバグマティ川と一緒に学び行動する)」が完成、6,500部を印刷しました (英語・ネパール語)。できあがった副読本は、学校の先生たちを通じて、生徒とその保護者に配布する予定です。今後はカトマンズ市内での更なる普及を目指します。



環境副読本
Bagmati Ji: We Learn and Act With the Bagmati River

地域の未来を背負う子どもたちに、川の課外授業を!

一みなさまからのご寄付で子どもたちの環境教育をサポート
川の上流から下流まで、自分の足で歩き、五感をフル活用して川を知るーネパールではこれまで行われてこなかった、参加型・体験型の授業に初めて参加した生徒たちは、川の下流がひどく汚れていることに驚きを隠せません。
カトマンズの学校の先生たちと作り上げたこの授業の実施を支えるために、ムラのミライ初のクラウドファンディング (インターネットによる資金集め) に挑戦しました。みなさまから638,000円のご寄付をいただき、バグマティ川の実情を知る課外授業の実践をサポートしました。



Project Data



NEPAL

どこで

■ネパール連邦民主共和国
カトマンズ都北部 ジョルパティ地区・
ボーダナート地区・ゴカルナ地区



だれが/だれと

上記地区内の小中学校の生徒たち、
環境教育担当教員、生徒たちの保護
者を含む地域住民

なぜ

ネパールの首都カトマンズを流れる
バグマティ川は、近年の急激な人口
増加に伴い、大量のごみ投棄や排水
の垂れ流しにより極端に汚染されて
います。行政だけに頼っては解決
できない問題に目を向け、失われた
バグマティ川の再生のために、カト
マンズの住民たち自ら「何をすべきか」
を考え、地元の問題に取り組む
ためのサポートをしてきました。

2013 ハイライト

2014年10月に、教員や地方自治
体職員を含む7人が来日し、名古屋・
岐阜における地域での環境保全活
動を学びました。これまでに実施した
課外授業や、日本での経験を反映さ
せた環境副読本が作成され、今後の
授業で活用していく予定です。

また、地域住民が管理運営できる分
散型排水処理施設の建設が完了し、
住民による利用、維持・管理が始ま
っています。

学校で、地域で、 ネパールの人々の手で バグマティ川をよみがえらせる！



長良川を視察する研修生たち 岐阜県



研修に参加するデジュ村の人たち
カトマンズ



ゴミの分別をするカトマンズ市内の学校の子どもたち
カトマンズ



これから

地域住民が一丸となって環境保全
活動をおこなう状態をめざし、
2015年度は次の活動に取り組み
ます。

(1) 学区横断的な環境保全活動
を実現するために、学校の先生による
地域住民を対象とした研修をおこな
います。また、研修をうけた住民によ
るアクションプランづくりをサポート
します。

(2) 新たに分散型排水処理施設を
建設します。地域住民に施設の仕組
みやコスト・材料を共有し、建設に
携ってもらいます。また、汚染のメ
カニズムや施設の保全方法等に関
する研修を行います。加えて、他地域
へ活動を広める指導員を養成します。



Project Data



TAKAYAMA

どこで

■岐阜県高山市



だれが/だれと

まちスポが中間的な存在として市民
と企業、そして行政とのコーディネ
ートやサポートを行っています。事業を
することで信頼づくりの構築をしてき
ました。

なぜ

場所の利用促進はもとより、そのほ
かに中間的な活動をしていることが、
なかなか市民に分かりにくいことも
あり、具体的な市民や企業を巻き込
む活動を展開する必要がでてきまし
た。わかりやすい事業をすることで関
連する人々や企業、行政との連携を
強めてきました。

2014 ハイライト

都市部の学生と飛騨中小企業の
連携を実現。社長の右腕として長
期インターンシップ事業を地元の
企業との連携で実施しました。
また、子どもを対象とした職業体
験を2日間のイベントとして実施。
地元企業の協力を得て、1500人
の参加を得ました。全国5地域の
中間支援組織「まちスポ」のスタッ
フが高山に集まり、今後の中間支
援のあり方や活動を検討し交流し
ました。

市民の活動をサポートするまちづくりスポット 新しい地域づくり、 まちづくりを目指して



子ども職業体験



都市部の学生と飛騨中小企業の連携

これから

2015年度からはムラのミライの
手を離れ、独立した団体として
活動していきます。これまで市民
活動団体や企業への認知度は高
まってきましたが、一般の方への
認知度が低いので、今後は地域の
まちづくり協議会との連携など、
新しい関係構築に努めます。